

「いのち輝く 水と緑の郷土(くに)」



■十四山村 J U S H I Y A M A

十四山村は人口5,791人（平成15年8月1日現在）面積9.97km²で、愛知県の西端、海部郡の中部やや南に位置しており、全域が木曾川河口に広がる浅瀬を干拓してつくられました。

十四山村の開発は正保4年（1647年）、尾張藩の命令により始まったとされています。

現在の十四山村の全域が形成されたのは寛保元年（1741年）のことです。その後、明治39年に宝地村と合併、昭和31年には善太新田の一部と合併し、現在に至ります。

村名の由来は、新田開発時に14の新田村があったとか、干拓時に14の葦山をもとに開発したためだとする説が有力ですが、子宝地区には「十四山」という力士が洪水の折、命を投げ出して村を救った功績を後世まで語り継ぐため、「十四山村」という村名にしたという伝説も伝わっています。

戦前の十四山村は、村内を無数の水路が流れる緑豊かな水郷村でした。人々は豊かな水の恩恵を受け、稲作に励み、江戸時代には尾張藩の殿様が食べる米を作るほどの米どころでした。

しかし、豊かな水郷村の風景も昭和34年にこの地方を襲った伊勢湾台風により一変します。猛烈な風雨により、村の命綱である堤防が決壊、村は約3か月に渡って泥海に沈み、多くの犠牲者を出しました。

その復興のため、水路の大部分は道路となり、河川の排水機能を高めるため、排水機場も増設されました。また、木曾川総合用水の導入により、湿田の乾田化が実現し、愛知県を代表する大都市近郊農村として、大型機械を導入した集団営農に取り組み、愛知県下でも有数の稲作地域となりました。愛知県を代表するお米「あいちのかおり」は十四山村でも栽培実験が行われました。現在ではミツバをはじめとする野菜の水耕栽培や、花き栽培等も盛んとなっています。



「神楽」10月上旬村内各地で開催

こうした豊かな農村地域である本村は、美しい自然を維持し、人とのふれあいを深め、くつろぎのある生活空間を形成するため、「共創十四山・いのち輝く 水と緑の郷土(くに)」をテーマに各分野で事業を展開しています。

未来を築く十四山村の子ども達に郷土の素晴らしさを伝え、誇りに思えるような魅力ある村づくりを進めています。

十四山村ホームページアドレス <http://www.vill.jushiya.aichi.jp>